

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2173100328
法人名	医療法人 馨仁会
事業所名	グループホーム 花トピア可児
訪問調査日	平成20年 4月19日
評価確定日	平成20年 5月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2173100328		
法人名	医療法人 馨仁会		
事業所名	グループホーム 花トピア可児		
所在地 (電話番号)	岐阜県可児市瀬田1646-5 (電話) 0574-64-0222		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年5月16日

【情報提供票より】(20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.51 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,350/日 円	その他の経費(月額)	理美容代・おむつ代実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	950 円	

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 77 歳	最高 88 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤掛病院・花トピアクリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>高台に位置するホームは、併設の老人保健施設と共に、堂々とその存在をアピールしているかのようである。近隣に民家はなく、道路を挟んで「花フェスタ記念公園」と隣接する立地は、そこを通る地域住民のみならず、地域以外の方々にも留まりやすく、「施設」として、一休み場所・トイレ利用初め、随時の見学・相談に対応する等、対外的に高齢者施設の役割を果たす結果となっている。併設の老人保健施設との連携・協働は万全であり、グループホームを含む「施設」として、医療ボランティア派遣等、地域への機能還元にも努めている。開設から6年、ホームの体制は確立され、利用者の落ち着いた生活ぶりからも、質の高いサービス提供がうかがい知れる。今後も、利用者の「普通の生活」の為の継続支援、更なる支援努力を心よりお願いするところである。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、地域とのかかわりについて、さらなる支援努力として、ホームの活動計画に期待をする1項目のみであった。しかし、ホームは、運営・方針・日常支援において、常に改善・向上への意識が高く、改善課題・改善状況としてではなく、ホーム全体の1年間の取り組みとして、更なる支援充実を果たしており、その取り組みを高く評価するところである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>特に自己評価を重んじ、「当たり前のこと」をさらに振り返り評価をすることで、改善点の気づきにつなげる取り組みを実践している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に一回の開催を目指し、ホームの近況報告を行っている。ホーム行事に合わせて会議を開催する等、参加率確保の工夫もある。前年度推進会議では、地域交流に成果を上げている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの意見・要望を待つのではなく、ホーム側から聴き取り、引き出す取り組みを実践している。聴き取った意見・要望は、早期にホーム運営に反映させるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの立地が住宅地でない為、日常的な近所付き合いが難しいことは否めないが、ホームから地域への外出等の働きかけ・併設老健との連携・地域雇用の職員との連携等、積極的に外部者との交流に努めている。また、近隣のスーパー・食肉店の食材配達等も、ご近所付き合いのような地域連携として位置付けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを『一家族』として考え、「暖かい家庭」作りを目指し、地域で暮らす利用者の、普通の暮らし支援を理念としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員はホーム理念・方針をよく理解し、利用者の「普通の暮らし」を支援している。利用者の役割分担のある日常生活・地域への外出等、入居前の生活の継続を考えた支援実践がある。		管理者交代から1ヶ月での訪問調査であったが、ホームの体制は確保され、落ち着いた雰囲気は担保されていることがよく理解できた。今後益々リーダーとしての手腕を発揮され、ホーム一丸となつての理念実現の為の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの立地が住宅地でない為、日常的な近所付き合いが難しいことは否めないが、ホームから地域への外出等の働きかけ・併設老健との連携・地域雇用の職員との連携等、積極的に外部者との交流に努めている。また、近隣のスーパー・食肉店の食材配達等も、ご近所付き合いのような地域連携として位置付けている。		地域交流の不利な立地をもともしない、利用者の「普通の生活」を考えたホームの支援に頼もしさを感じた。職員からの差し入れ・おすそ分けでも、利用者にとっては「わが家」への到来物。食材配達のおまけも、ホームにとってはご近所付き合い。と受け止める意識の工夫を評価するところである。今後も更なる意識改革をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	特に自己評価を重んじ、「当たり前のこと」をさらに振り返り評価をすることで、改善点の気付きにつなげる取り組みを実践している。前回までの評価では、公表された評価結果を見た外部者が見学を訪れる等の事例もある。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一回の開催を目指し、ホームの近況報告を行っている。ホーム行事に合わせて会議を開催する等、参加率確保の工夫もある。前年度推進会議では、地域交流に成果を上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設老健の事務局が市との連携体制を築いている。事務局長は定期的に市担当を訪問し、情報収集・情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手書きにこだわる見た目にも楽しいホーム便りの発行で、利用者の日常を報告している。また、家族来訪時には積極的に口頭での報告を推進し、利用者の状況・変化のご理解をいただいている。状況・状態急変時は、電話連絡の手段で確実な伝達を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・要望を待つのではなく、ホーム側から聴き取り、引き出す取り組みを実践している。聴き取った意見・要望は、早期にホーム運営に反映させるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の日常生活を守る為に、「家族」の一員である職員異動には大きな配慮がうかがえる。職員採用時には、介護意識・条件等を確認し、長く勤められるかの判断も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設老健での合同学習会参加・他機関主催の外部研修参加等、職員の必要に応じた参加を推進している。また、介護福祉士等の資格取得に対しても、法人ぐるみでの意識が高く、希望する職員を支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務局・管理者が同業者との交流会・会議等に出席をしている。ネットワークづくり等を視野に入れた取り組みを目指しながら、現状では情報交換が主な交流となっている。		管理者・職員の向上心・自己研鑽を考え、定期的・計画的な他ホーム見学・交流、さらには他ホーム職員の見学・交流受け入れ等は非常に有効であると思われる。他ホームとの今後のネットワークづくりの進捗に大いに期待するところである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望者・家族の見学、日中体験、入居体験等、希望に沿った対応を行っている。今回訪問調査では、入居から日の浅い利用者の方とお話をさせていただく機会に恵まれ、お話の内容、落ち着いた様子からも、日々の生活に満足していらっしゃる事がうかがい知れた。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム理念にあるとおり、「家族」としての意識、共同生活者としての意識が高く、共に支えあう生活を実践している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常会話の中から利用者の希望・意向を聴取し記録している。利用者毎の状況・状態の変化にも留意し、「思い」の変化に配慮している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族との関係確立を考え、利用者担当制を取り、専門・責任制に配慮し、課題抽出・解決を目的とした介護計画策定に努めている。また、担当外職員も日々の記録票に利用者の変化を記録し、ケアプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者担当制の利点を活かし、利用者の状況・状態変化時には早期の対応を可能としている。見直しから新計画作成までは、ミニカンファレンスで介護方針を話し合い、申し送り職員周知を図り、迅速な対応を実践している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老健併設のメリットを最大限に活かし、行事・リハビリ等への参加を利用者の楽しみとして取り組み、習慣的な日常支援として実現させている。また、法人クリニック・病院利用は、利用者・家族の大きな安心となっている。		いざとなったら老健がある・クリニックがある・病院がある。という「よりどころ」は、利用者・家族の安心のみならず、職員の安心となっている。法人全体の介護意識は高く、今後の更なる支援充実が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設メリットを考え、クリニック利用をお勧めするが、基本的には、利用者・家族の意向を尊重している。意向・希望を聴き取り、通院・付き添いの支援も、家族との話し合いで行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できる限り利用者・家族の希望に沿う対応を行なう方針である。かかりつけ医・看護職員の連携、ホーム職員の連携の体制化を図っている。実際にホームでの看取りの事例がある。		現状で、担当職員の心身の負担、さらには一人の利用者に手を取られる事による、他の利用者・職員との兼ね合い等を継続的な検討課題としている事から、今後の対応に大いに期待するところである。また、チームで行なうケア実践のますますの充実をお願いするところである。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮し、敬いの対応を実践している。利用者一人ひとりの性格・特性に応じた対応に勤め、利用者の落ち着いた生活を支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「きまりをつくらない」きまりがある。共同生活としてのおおよその時間の流れは決まっているが、その時・その状況に応じた対応を心がけ、利用者の希望・意向優先の支援を実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査日の視察でも、活動できる利用者一人ひとりが役割を持ち、率先して立ち働く姿が印象的であった。共同生活を支える職員は、利用者と共に作業し、提供するだけのサービスにならない配慮を感じた。おいしいものをおいしく頂く、家庭的な雰囲気のある食事風景であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・おおよその時間帯は、ホームの生活時間の流れで決まっているが、スムーズな支援を利用者の負担になることなく、利用者の特性・状態の把握で、入浴順・時間設定を臨機応変に対応し、利用者満足の入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームのあちらこちらに利用者の「楽しみ」を展示・掲示し、意欲の啓発につなげている。共有空間にはすぐに手に取れる位置に編み物の道具・折り紙等を置き、作品を工夫する事で利用者の喜びを引き出す配慮もある。利用者への職員の声かけがすばらしく、利用者の「やる気」支援を評価したい。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設老健のリハビリ・体操参加は利用者の日課であり、当日の視察でも意気揚々と向かわれる姿があった。その他、利用者の希望に沿っての外出支援、気候を考慮しての行事・散歩等、併設老健の送迎車を活用しながらの支援を実現している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面している事、近隣に民家が無い事等、利用者のもしもの場合のリスクは大きく、やむを得ずの玄関施錠の方針である。しかし、施錠を行なう事の弊害は周知しており、利用者の外出希望・要望のある場合は適切に対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設老健との合同避難訓練、職員訓練を行い、緊急時に備えている。利用者の緊急連絡先の把握、老健・ホームの緊急連絡先・連絡網整備等、取り組みを体制化している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健の栄養士・看護職員との連携もあり、利用者の状態に応じた支援を行っている。また、利用者毎の食事摂取量を記録し、健康管理につなげている。さらに、職員交代で、検食・評価も実施・記録し、質の高いサービス提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭のある回廊作りで、行き止まりの無い空間は、広々とした広がりを感じさせる。共有空間のあちらこちらに、利用者の作品が置かれ、食卓スペース・リビング・和室スペース共に、家庭的な雰囲気があり、利用者の生活空間として何ら問題は感じられない。また、回廊の数箇所に長椅子の設置があり、活動する利用者への心配りが感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	視察させていただいたどの部屋も、利用者それぞれの個性があり、生活の場であることが感じられた。さらに驚かされたのは、どの利用者の方も非常にオープンで、居室を閉め切ることなく、入り口を開け放しておられた。その光景から、利用者のホームに対する居心地の良さが十分に推察できた。		